

学級会ハンドブック

第7回 学きゆう会シート 6月22日 (木) 3校時
3年 1組 名前

ぎだい
はんの人となかよくなるための会を考えよう

ていあん理ゆう (かんたんに書く)
①はんのきずなをふかめるため。
②はんで楽しく生活するため。
③はんの人と思い出をつくるため

話し合いのめあて
日時間を大切に話し合おう。

決まっていること
①30分で3こ。
②さいごの5分でかんそう。 6月28日 (水) 場所 体育館

計画いん会 司会 黒板
司会 黒板

話し合うこと ・自分の考えを書きましょう (理ゆうも)

(1) おたのしみ会の内よう
意見 船からおちるな!!
理ゆう はんの人とキズながいつかめるから。

(2)
意見
理ゆう

学級会シート見本(左側)

補足資料①

種市小学校研修部

1 学級会で育てたい力

(1) 「学習指導要領」から

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくり参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

(2) 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(監修：文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター)」から

学級活動(1)の授業は、児童が自分たちの学級や学校の生活をより楽しくするために、議題を見付け、話し合い、協力して実践する自発的、自治的な活動を通して、自治的能力を育みます。

(3) つまり、まとめると・・・

① よりよい人間関係を築ける力を育てましょう。

自分の意見を発言するときは発言し、聞くときは聞く。決まったことには主体的に関わっていくことで、周りの人たちとよりよい関係を築いていくことができます。

② 社会参画への意識を高めましょう。

よりよい学級・学校を築いていくのは自分だという意識を高めることで社会への参画意識も高まっていきます。

2 計画委員会

計画委員会は、議題を選定したり学級会を進行したりします(輪番制で行います)。下のように**計画委員会**が仕事をスムーズに行えるように**タイムテーブル**を作ると子供たちが動きやすくなります。これは高学年用に作成したものです。学年に応じて作成してみましょう。

計画委員の仕事



木曜日	朝活動	議題提案カードを書くように呼びかける。 ない場合は係活動をする。
金曜日	中休み	議題ボックスをチェック。 学級会で話し合う価値のある議題を選ぶ。 話し合う価値のある議題とは・・・ ①今すぐ解決しなければならない議題 ②学級全員で協力しなければならない議題 ③具体的に実行できる議題 ④様々なアイデアを出せる議題 ⑤学級・学年・学校をよりよいものにできる議題 朝の会や帰りの会、係活動で解決できるものはその時間に解決する。
	昼休み	学級会で話し合うことを先生に報告する。 もし話し合うことがなければそのことを報告する。
	帰りの会	学級会で話し合うことをみんなに伝え、 議題に対して「何をするか」決める。 「どのようにするか」を考えておくように伝える。
月曜日	朝活動	みんなに学級会シートに自分の考えを書いてもらう。
	中休み	学級会シートに目を通し、どのような意見があったかをまとめ、先生に報告する。 どの意見を学級会に出すか話し合う。
	昼休み	学級会に出す意見を解説付きで画用紙に書く。
火曜日	中・昼休み	月曜日の続き。書いたら掲示。早く終われば遊べる。
水曜日	中休み	学級会の打ち合わせ。
木曜日	2時間目	学級会。
	その後	決まったことを実行する。

これを行うことで・・・

- ①計画委員が学級会についての**見通し**をもてる。
- ②計画委員の**進捗状況**を把握できる。
- ③子供たちが**自主的に動き出す**。

3 各学年の系統性

計画委員会(司会・運営)のもち方

(1) 低学年では先生が計画委員になりましょう

「1年生」・・・担任が司会をしましょう。黒板書記も担任が行いましょう。慣れてきたら少しずつ子供たちに役割を与えていきましょう。

「2年生」・・・1年生の時よりも子供たちが行う役割を増やしましょう。徐々に計画委員会の良さが理解できるように仕向けていきましょう。(例えば、計画委員会を立候補制で行い、学級会後にたっぷりとほめてあげると、他の子供たちの意欲につながるのではないのでしょうか)

(2) 中学年では子供と一緒に計画委員会の仕事をしましょう

「3年生」・・・司会にアドバイスをしたり、時には自ら司会をしたりして学級会がスムーズに進行するように努めましょう。3年生の後半は、学級会の事前の打ち合わせもできるといいですね。

「4年生」・・・事前の打ち合わせを子供たちとしっかり行いましょう。学級会の最中は司会にアドバイスをしましょう。提案理由からそれた話し合いが行われているときはすかさず全体指導をしましょう。

(3) 高学年ではできるだけ計画委員会に任せましょう

事前の準備・学級会ともに計画委員に任せましょう。任せるといっても任せっきりでなくしっかり評価を、ときには指導をしていきましょう。外から全体を見て、足りない部分を指導できるといいですね。

※ただし、子供たちの実態に応じて指導は変えていきましょう。

これを行うことで・・・

- ①低学年は計画委員に対する意欲が高まる。
- ②中学年は学級会でスムーズな進行ができるようになる。
- ③高学年は様々な場面で企画・運営ができるようになる。

4 議題あれこれ

様々な議題が考えられます

(1) 学級に関わる議題

- 1 学期がんばったね会をしよう。
- 給食準備や帰りの会の準備をスムーズにするためには。
- 忘れ物をへらしてハッピーになろう。

(2) 全校に関わる議題

- 1 年生が楽しめるような交流会の内容を考えよう。
- 種小に残していく文化を考えよう。
- 学び合いロードを变身させよう。

(3) 行事に関わる議題

- 地域の良さを知りたくさんの人に認められるような修学旅行のテーマを決めよう。
- 音楽発表会を笑顔で終えるためには。
- 騎馬戦の作戦を考えよう。

(4) 児童会に関わる議題

- 運動会スローガンを達成するために全校で取り組めるような活動を考えよう。
- 全校が笑顔でさわやかなあいさつができる楽しい取り組みを考えよう。
- 児童会スローガンを達成できるような校舎内での過ごし方を考えよう。

学級会ポストを用意して、様々な議題で話し合いをしていきましょう。

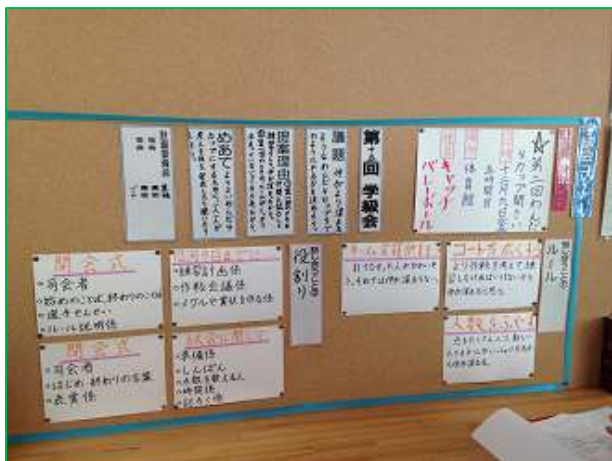
《議題の種類》大きく分けて、次の2種類があります。

「何をするか」・・・「お楽しみ会の内容を決めよう」(ドッジボールにするか、お菓子作りをするかを決める議題)

「どのようにするか」・・・(お楽しみ会の内容を「ドッジボール」に決めておいて)「みんなが楽しめるドッジボールのルールを考えよう」

どちらの議題も大切ですが、「どのようにするか」を決める議題にもチャレンジさせましょう。合意形成を教えるにはとてもいい議題です。

5 比べ合いと板書



学級会は「出し合い→比べ合い→まとめる」という流れで行います。ただし、「比べ合い後半」と「まとめる」は同時進行となることもあります。また「出し合い」を事前に済ませておいて「比べ合い」から学級会をスタートすると話し合いにたっぷり時間をかけられます。

事前に出された意見を掲示

(1) 「比べ合い」をおこなう前に話し合

し合いをしましょう。

- ① 「賛成意見(良い点)」「心配な点」「改善策」の三つに分けて話し合いをしましょう。
- ② まずすべての意見に対して「賛成意見」を出してもらい、次に「心配な点」を出してもらおう。最後に「改善策」を話し合いましょう。



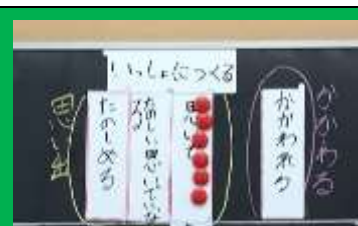
← 出された意見

← 賛成意見(良い点)

← 心配な点

← 改善策

(2) 「賛成意見」を提案理由のキーワードごとにまとめましょう



出された賛成意見を提案理由のキーワード(「5 決め方について」を参照)ごとにまとめると、心配な点を出しやすくなります。

これを行うことで・・・

- ① 子供たちが、今何についての話し合いをしているか明確になる。
- ② 話し合う時間が確保されるのでみんなが納得する話し合いをしやすい。
- ③ 賛成している意見に対しても心配な点を出すことができる。

6 決め方について

学級会では集団決定を行います。このとき、できるだけ少数意見にも耳を傾けて集団決定を行えるようにしましょう。極力、多数決で決めることを避けて、合意形成を目指しましょう(時間がなければ多数決で決めてもいいですが、その場合は決まったことには必ず従うというルールを事前に学級で確認しておきましょう。また、多数決をしないで「保留」もありです)。自分も良く、みんなも良い合意形成が行えるように次のことを意識しましょう。

(1) 提案理由を明快・明確にしておきましょう

- ① 提案理由を明快・明確にしておくことで、提案理由に戻って折り合いをつけられます。
- ② 三つの提案理由に対してキーワードを決めておくと、提案理由がより明快・明確になります。

(2) 条件設定をしっかりしましょう

- ① 例えばお楽しみ会で行うゲームを話し合うときは「いつやるのか」「どこでやるのか」「何分やるのか」「いくつゲームをやるのか」など、細かく条件設定をしておけば話し合いが焦点化されて折り合いをつけやすくなります。
- ② 条件設定は計画委員が先生と相談して事前に決めておくといいですね。

(3) 合意形成の仕方を教えましょう

- ① 特に低学年では、合意形成の仕方を教えていきましょう。
- ② 「意見を合わせる」「いいところを組み合わせる新しい意見を作る」など、どんな方法があるかを教えていきましょう。

これを行うことで・・・

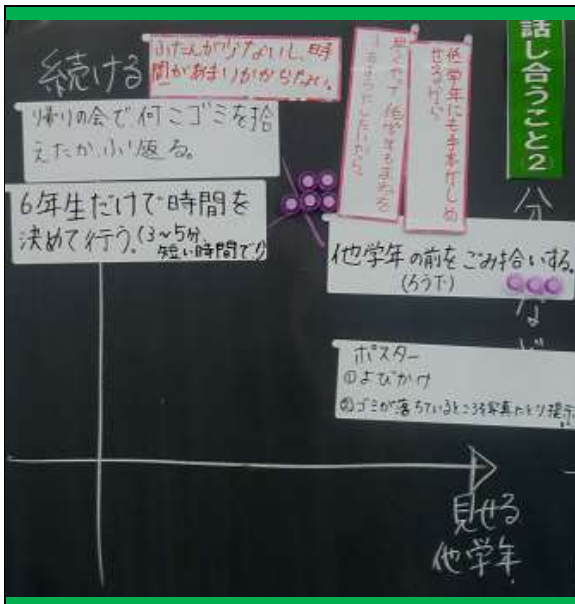
- ① 一人一人の思いを大切にしたい学級経営ができる。
- ② 子供たちが納得して実践に入ることができる。
- ③ 他教科のグループ学習でも友だちの意見を大切にする子供に育つ。

7 様々な決め方

(1) 「何をするか」ではなく「どのようにするか」の話し合い

- ① 学級会で折り合いをつけるときによく使われるのが「合体技」。しかし、「何をするか」を決める話し合いでは合体技は使いにくい。(例えばお楽しみ会の内容を決める時、「ドッジボール」と「お菓子作り」は合体することが難しい。)
- ② 「何をするか」は事前に決めておき、「どのようにするか」の話し合いをすることで合体技が使いやすくなる。(例えば事前に「ドッジボール」に決めておき、ドッジボールのルールを考える話し合いができるといいですね。)

(2) 思考ツールの活用



- ① 思考ツールを活用することで決める方法がある。
- ② 写真の思考ツールでは、縦軸と横軸に提案理由のキーワードをつけて、出された意見を表に表したものである。

これを行うことで・・・

- ①話し合いの観点がはっきりするので、決めやすくなる。
- ②提案理由を意識して決めることができる。
- ③様々な決め方を学ぶことができる。

8 教師の指導助言

(1) **学級会始め**の「先生から」では次のような指導助言をしましょう。

- ① **提案理由をもう一度確認**しましょう。
- ② 「たくさん意見を言おう」などの情意面ではなく、提案理由に沿った話し合いができるような声掛けをしましょう。

(2) **学級会の中で**次のような場合は教師が指導・助言をしましょう。

- ① **提案理由からそれた話し合いになったらすぐに**指導・助言を行いましょ
う。早めに修正しないと、提案理由からどんどん離れた話し合いが展
開されてしまいます。
- ② **人権を侵害する発言があった場合はすぐに**指導・助言を行いましょ
う。二度と話をしない子供になってしまいます。
- ③ **子供が発言しているときに周りがそれを遮って話し始めたらすぐに**
やめさせましょう。話し合いのルールが崩れます。

(3) **終末**は次のような観点を①から④の順番で話をしましょう。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ① 前回と比べて良かったこと | ② 次回に向けての課題点 |
| ③ 計画委員会の事前準備への労い | ④ 実践への意欲付け |

指導助言は全体に行うようにしましょう。

これを行うことで・・・

- ①学級会のルールが明確になり**ルールを守ろうという意識が芽生える。**
- ②学級会だけではなく学級のルールも守ろうという意識が芽生える。
- ③終末の指導助言により、実践・次の学級会への意欲付けができる。

9 振り返り

(1) 振り返りは次の観点で行いましょう。(高学年の例)

《振り返り》	
☆ めあてを意識して、話し合うことができた。	()
☆ 友だちの意見のよいところを考えながら、聞くことができた。	()
☆ 自分の意見を進んで発表することができた。	()
☆ 決まったことや、自分がこれから何をしたらよいか分かった。	()
☆ 実践に向けてがんばろうという気持ちになった。	()

← 「めあて」の振り返り
← 「聞く」の振り返り
← 「話す」の振り返り
← 「自分の役割」の振り返り
← 「実践に向けて」の振り返り

学年に応じて言葉を変えていきましょう。

(2) 感想は次の観点で行いましょう。

《学びの会の感想》(自分のがんばったところや友だちががんばったところ、活動に向けて)	
①友だちは・・・	← 「友だちは」
②自分は・・・	← 「自分は」
③活動に向けて・・・	← 「実践に向けて」

感想の観点は、友だちについてから書くと、友だちの良さを振り返り、自分はどうだったかを振り返って書くことができます。

(3) **実践が終わった後も振り返りを**しましょう

《活動の振り返り》	
☆ 活動に向けて進んでしゅんびができた	実践が終わった後もしっかり振り返りをしましょう。感想には提案理由を忘れずにできたかもかけるといいですね。
☆ みんなと協力して活動することができた	
☆ 自分の仕事をさいごまでできた	
☆ みんなと活動を楽しむことができた	

これを行うことで・・・

- ①友だちに視点を向けることで、友だちから学ぶことができる。
- ②実践に向けて、または次の学級会に向けて意識を高めることができる。
- ③振り返りをくり返すことで、我々教師の「目指す子ども像」に近づいていきます。

10 終わりに

積極的に学級会をしていきましょう

「学校現場に忙しくない時はない」ということをおっしゃった先生がいました。まさにその通りです。そして忙しくなるとついつい後回しになるのが学級会です。しかし、学級会をすることで、友だちの意見を大切にすることが育ったり、ルールを守ろうという子供が育ったりします。また、自分が所属する学級・学年・学校をさらに良くしようという意識も芽生えてきます。大変だけど学級会はいいことばかりです！積極的に学級会をしていきましょう。



《決まったこと》

だるまさんがころんだ1日、ぼくだんぶ
うせんゲーム、おに新聞

《学びゆう会のふりがえり》

- ☆ めあてをいしきして、話し合うことができた。 (A)
- ☆ 友だちの意見のよいところを考えながら、聞くことができた。 (A)
- ☆ 自分の意見を述べて発表することができた。 (A)
- ☆ 決まったことや、自分がこれから何をしたらよいか分かった。 (A)
- ☆ みんなで決めたことをがんばろうという気持ちになった。 (A)

《学びゆう会の感そう》(自分のがんばったところや友だちががんばったところ、活動にむけて)

①友だちは・・・ていあんりゆうにそって、り
おちゃんかしんかんを出してによかった
②自分は・・・ていあんりゆうにそっていえた
③活動にむけて・・・せんこうせいのさえちゃん
なかよくなれるようにしたい。



《活動のふりがえり》

- ☆ 活動にむけて進んでしんびができた (A)
- ☆ みんなときょうりよくして活動することができた (B)
- ☆ 自分の仕事をさいごまでできた (A)
- ☆ みんなと活動を楽しめたことができた (B)

《活動の感そう》

学びゆう会できめたことをまも
れなくて、ざんねんだったつき
は、またことをまもりたいです
るうだね。しっかり守りたいね。

学級会シート見本(右側)